

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和3年3月30日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795400023		
法人名	株式会社ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡アネックス		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡中1-5-26		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

### 【事業所基本情報】

<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和3年3月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成21年11月に開設。1Fに小規模多機能型施設、2Fに1ユニット9名のグループホームとして運営しております。また、近隣には提携する医療機関があり利用者様の体調変化に即座に対応できる体制となっております。また、現在はコロナによる感染予防の為に自粛しておりますが、近隣スーパーや地域の行事にも積極的に参加しております。また、年間を通じ様々な行事を行い、季節感や楽しみを持って頂けるよう努めております。行事実施の際にはご家族様にも参加頂き、ご家族様同士の交流の場にもあるよう心がけております。本ホームの理念にもある「愛のある我が家のような生活を目指します。」「自由な環境を創造します。」「安心と信頼のホームを実現します。」を掲げ、常に職員が意識し、ご利用者さまやご家族様、また職員自身がともに「アムールに来てよかった。」とすることができるホームの実現に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームアムール忠岡アネックスは利用者本位を心がけ日頃のケアに取り組んでいる。利用者が自由な暮らしができることを考え、一人ひとりに沿ったケアについて職員間で話し合いを重ねている。利用者のできる範囲で職員と一緒に家事を行い、利用者にとって必要な事を模索し、日々楽しく生活ができるように取り組んでいる。現在はコロナ禍のため外出はできていないが、以前は年間でも楽しみが持てるように日帰り旅行を企画し、須磨や淡路島へ家族も参加し出かけている。自宅への外泊や短時間帰宅など家族の協力を得て、自宅周辺の知人等との関係が継続できるように支援している。事業所の近隣にあるスーパーマーケットへ買物へ行き、利用者自身で商品を選択できるように支援している。利用者と一緒に地域の行事に参加することや事業所が主催する行事にも地域住民が参加し、相互に交流を図っている。共用空間は調理の音や匂いが感じ取られ家庭的な雰囲気である。利用者間のコミュニケーションが円滑にできるように職員が間に入り会話が楽しめるように取り組んでいる。行政とも協力関係が築けており、高齢者の緊急保護で受入れを行ったり、災害時に被災した高齢者の受入れ事業所となることや利用者の避難場所なども話し合っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示、また職員の名札にも理念を印字し常に理念を意識するようにしている。また、管理者を含め職員同士でミーティングや個別で話し合う機会を多くつくり随時意見交換を行い理念に沿った支援が行えるよう努めている	毎月のミーティングや日頃のケアで理念の共有を図っている。利用者一人ひとりの心身の状況や生活環境に合わせて、個別での支援を考え、自由で安心した暮らしができるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動や行事に積極的に参加している。また、地域のスーパー等にも買い物に出かけるなどしている。	敬老会や認知症カフェを開催し、地域住民を招き交流を図っている。また、地域の行事に利用者と一緒に参加したり、散歩時に挨拶を交わしている。現在はコロナ禍により全ての行事等は中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェへの参加、行政が行う認知症サポーターへの講師派遣、ラン伴への参加を行うなど認知症に対する理解を深めて貰えるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地区福祉委員、社会福祉協議会職員、行政職員の方に参加頂き、事業所の運営状況等を伝え意見や助言を頂いている。	2ヵ月ごとに運営推進会議を開催しているが、コロナ禍で書面会議となることもある。災害時に被災した地域住民の受入れが可能となるかや利用者の避難場所などを協議することもある。議事録に残し、ミーティングで話し合い、サービスに反映できるように努めている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者状況の報告や緊急時の受け入れ、利用相談に対応するなど、地域の要援護者の支援について協力に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は月に2～3回程度は町役場へ足を運び、事業所の空き情報など速やかに提供することを心がけ、町の担当者と情報の交換を行っている。高齢者の緊急保護で受入れを行ったり、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けるなど協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に係るマニュアルの設置や勉強会の定期的な開催。また日々の声掛け等においても職員同士で気を付けて行うよう努めている。また、ホーム玄関については夜間のみ施錠とし日中は開放している。</p>	<p>ユニット出入口は、施錠しているが、外出は自由に行けるように配慮している。 管理者はどのようなことが身体拘束に当たるかを個別のケースを通じて職員へ指導している。職員がお互いに注意ができるように職員間で話し合う機会を持っている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について、定期的に勉強会の実施、また他施設で起こった事例なども常に共有し虐待防止に取り組んでいる。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業、成年後見制度等の勉強会を実施し学ぶ機会を設けている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には重要事項説明書を用いて説明を行い、些細な疑問点にもお答えし納得頂いてから契約を行っている。また退去後の生活についても援助を行っている。また制度改定があった際にも十分に説明を行い納得頂いている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会カードに要望欄を設けている。また、面会時等ご家族様と積極的に話を行い、意見、要望をお聞きできるように努めている。また頂いた意見等については朝礼終礼等を通じ職員間で共有するようにしている。</p>	<p>家族等の意見は訪問時や電話で聴き取っている。現在、コロナ禍において面会が難しい状況ではあるが、家族の要望で面会希望などがあり、感染防止を徹底し、短時間での面会が可能となるように取り組んでいる。聴き取った意見や要望は連絡ノートに記載し職員間で情報の共有を図り、場合によってはミーティング等で話し合い、運営に反映できるように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼、終礼やミーティング、また個人的に話し合う機会を設け、出された意見については運営に反映するようにしている。</p>	<p>管理者は全職員と年2回の個別面談を行い、じっくりと話を聞く機会を設けている。普段からも相談しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見を聴き取っている。利用者のケア等に関する事が多く、その一つとしてバスをレンタルし日帰り旅行を実施するなど、職員の意見を運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年二回の定期的な評価、随時行う職員面談を実施し、その際に出された意見を基にやりがいを感じる職場環境・条件作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社研修への参加や全体会議において、毎回研修発表者を決め、各自でテーマを選び学んだ内容を発表するようにしている</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>町内の事業所連絡会への参加、また他の事業所職員との情報交換などを行いサービスの質の向上に努めている。</p>		
----	--	---	--	--

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前には数度の面談を行い、本人様の生活歴や要望不安などをお聞きし安心して頂ける関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前には数度の面談を行い、ご家族様の思い等を十分に聞き安心して頂ける関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にご本人様にとってすぐに必要な支援を検討し、必要に応じ他制度などの情報提供も行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活において、施設のルールを押し付けることなく、常にご本人様の意見を聞きながら生活して頂き、家事等を行う際にも一緒に行う等「支援をする側、支援をされる側」という関係にならないよう務めている。</p>		

19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご利用者様の現状をこまめに報告し、ご家族様にして頂きたい内容についてもお伝えし、職員と役割を分担し支援を行うことができる関係作りに努めている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会や帰宅などを取り入れ、関係が途切れないよう取り組んでいる。</p>	<p>家族の協力を得て自宅への外泊や短時間での帰宅ができるように努め、自宅周辺の知人等との関係が継続できるように支援している。また、利用者同士の関係づくりを図り、コミュニケーションがとりやすい環境となるように職員がサポートし、新たな関係ができるよう取り組んでいる。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の関係を把握し、配慮した座席配置、利用者様同士が一緒に行うことができる作業の提供や、職員が入りながらスムーズに利用者様同士が関わりを深めることが出来るレクリエーションの提供等に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用終了後についてもご家族様と連絡を取る等し、ご家族様等のフォローを行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前面談でご本人の思いを把握し、入居後の常に思いを聞くよう努めている。また、意思疎通が困難な方についても収集した情報や日々の状態から本人の思いや意向の把握に努めている。	職員と利用者は調理や掃除等を日頃から一緒に行い会話等を通じて、利用者の思いや意向を感じ取れるように心がけている。意思疎通が難しい利用者には表情や仕草から見て感じ取ったり、家族等から思い等を聞き取っている。聞き取った内容は記録や口頭で職員間で情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用開始前にご本人様、ご家族様から現在までの生活歴等の詳細を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄、行動等の記録を細かく取り、現状の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成、介護職員、主治医、ご家族、その他必要な機関と定期的に随時開催し、ご利用者様の状態把握を行い、現状に沿った介護計画の作成を行っている。	関係者に個別で意見や課題等を聞き取っている。介護計画は3ヵ月ごとにモニタリングし、心身の状況に変化があればその都度見直している。目標などは利用者が達成できる範囲で具体的にし、利用者自身が生きがいややりがいを感じ取れるように作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録用紙を用い、日々の様子を細かく記録し、朝礼等において情報共有を図り、随時ケア内容を検討し、実践や介護計画の見直しを行っている。		

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日々のルーティーンでのサービス提供ではなく、その日の体調等も踏まえ柔軟に必要なサービスを提供している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>様々な社会資源を把握するため、地域組織や行政から情報収集するなどし、ご本人の日々の暮らしに取り入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医の定期受診の際にはご本人やご家族様の希望を伝えている。また必要に応じ、他の医療機関を紹介して頂くなど適切な医療を受けることができるよう努めている。</p>	<p>利用開始時の本人、ご家族との話し合いにより、現在は利用者全員が事業所に2週間に1度往診に来る協力医が主治医となっている。専門医の受診については家族の要望により職員が付き添う時もある。また家族の要望で職員も付き添い家族と一緒に医師からの話しを聞くケースもある。診療の記録は個人のケースファイルに記入し職員で情報共有をしている。また処方箋の情報については変更が多いので、事務所内のの白板に記入しており、それを見れば職員が安易にわかるように管理している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康管理を行っている。その際に日々の状態を看護師へ伝える適切な看護を受けることができるよう支援している。</p>		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際にはホームでの情報を医療機関へ提供している。また早期退院に向け、こまめに医療機関を訪問し状態把握に努めている。</p>		
33	<p>12</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際、また入院等状態の変化があった際にもご家族等に十分な説明を行っている。また、ホーム、ご本人、ご家族様が方針を共有できるよう努めている。</p>	<p>事業所の看取り指針に基づいて、事業所で可能な医療的ケアの範囲を説明し、同意書に署名、捺印をもらっている。しかしながら現状、事業所では24時間対応できる医療機関との連携が不十分であり、事業所で看取りの対応は困難な状況である。</p>	<p>24時間対応の医療従事者と連携を図ることや、看取りについて職員研修の実施など、終末期に対応できる体制作りに期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルの作成、また勉強会を実施する等、対応できるようにしている。</p>		
35	<p>13</p> <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>各マニュアルを作成、勉強会の実施等の実施。また、地域の防災訓練への参加も行っている。</p>	<p>現在コロナ禍であるため避難訓練については実施できていないが、以前は年に2回、共に夜間を想定した消防訓練(避難訓練)を行っている。コロナ禍前は忠岡町主催の防災訓練にも利用者、職員共に参加している。地域住民の協力を運営推進会議等で呼びかけているが体制作りができていない。備蓄については利用者が3日間をしのげる食料を備蓄している。またランタンも購入をし災害に備えている。</p>	<p>コロナ禍でもできる訓練を考え実施し運営推進会議等を通じて、地域住民の協力が得られるような取組に期待する。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報、接遇等の勉強会を定期的を実施。また、日々、職員同士が気になる言葉かけ等について注意できる環境作りに努めている。</p>	<p>個人情報の取り扱いには日々注意を払い鍵付きの書庫で厳重に管理している。利用者への声掛けにも注意を払い支援に取り組んでいる。また本社主催の接遇研修には職員の代表が参加し、後日、受講者による伝達研修を全職員に実施している。職員同士でも利用者への言葉遣い等を日頃から注意をしあい意識を高めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常にご本人の思いを聞き、感じ取ることができるよう努めている。また、普段よりご自身の思いを表出しやすい関係作りに努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に介護者本位ではなく、利用者本位を職員が意識し、ご本人様が思うようなペースで生活をして頂けるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>お化粧品や髭剃り、好きな洋服を着て過ごして頂くよう、身だしなみにはご本人様に意識して頂くよう支援している。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事づくり、配膳、下膳等について、出来るだけご利用者様と行い食べる楽しみだけではなく、作る楽しさや役割を感じて頂けるよう支援している。</p>	<p>能力に応じて調理補助や配膳、下膳、食卓を拭く等を職員と一緒にしている。また味見役をしている利用者もおり、利用者全員が役割をもつことで、食事に楽しみを持てるように支援している。献立については本社にて作成された献立表があるが、月に1度は利用者の希望を聴き取り提供している。利用者の状況に応じて食べやすいように、トロミ食にしたり、刻み食にしたり柔軟に対応している。またおせち料理など季節感が感じてもらえるように時節柄に応じた料理も提供している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事形態への配慮、体調に合わせた食事量、水分についても体調に合わせて提供している。提供した食事、形状、等については記録に残し共有できるよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>定期的な口腔ケアの実施。また、訪問歯科からの指導による各利用者様に合わせた口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の排泄パターンについて記録等による把握をし、職員間で共有を図りトイレ誘導の時間等を決定している。また、ご利用者様の様子により適宜トイレ誘導等を行い、排泄の自立に取り組んでいる。</p>	<p>利用者ごとに排泄表を作成しており、それぞれの排泄パターンに合わせて時間を決めずに支援している。また紙オムツ・尿とりパッドを使用している利用者には、定期的に見直しを行い、より快適に過ごせるように努めている。夜間帯は睡眠を優先しており、睡眠の状況により排泄の声かけを行っている。4日間排便が無いときは主治医に連絡し都度、指示を仰いでいる。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘状態の改善の為、食事内容なども検討し内服薬のみに頼らないよう取り組んでいる。</p>		
45	<p>17</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴を強制することなく、ご自身の判断で入浴時間等を決めて頂いている。また、意思表示の困難な方については体調等を充分考慮し入浴をして頂いている。</p>	<p>入浴は基本的に3日に1回となっているが希望があればそれ以上の入浴も可能である。入浴時は特にコミュニケーションが図りやすい場所でもあるので、日常では聴き取れない内容の話が聞けたりする事もあり、日々の支援に役立っている。また浴槽内でYouTubeを利用して好きな歌を聞いてもらい少しでも楽しめる様に提供している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間、休息時間は定めておらず、その時々状態によりご本人様に判断して頂いている。また意思表示が困難なご利用者様については状態を把握した上で適宜休息を行って頂く等支援を行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤情報を保管し、内服状態等を把握できるようしている。また、内服による症状の変化等について記録等に確認し職員間で共有している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>常に役割を持って頂いて生活して頂けるよう家事等については、出来るだけ一緒に行うよう努めている。また、一日の中でメリハリのある生活を送って頂けるようレクリエーション等も取り入れ支援を行っている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>施設物品や本人の私物等の買い物について、できるだけご利用様と行くなど外出の機会を多く作るよう支援している。また、ご家族様の支援も頂いた外出も実施している。</p>	<p>コロナ禍であるため、以前の様な旅行等の外出が十分にできていないのが現状であるが、玄関先や事業所内の園庭に出て気分転換を図っている。コロナ禍での散歩等の外出は地域の人々の目もあり難しい状況なので事業所内で身体を動かせる体操等の楽しめることを探して提供している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の現金については事務所金庫で保管しているが、買い物の際にはできるだけご自身で精算して頂くよう支援している。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人様が希望する際や定期的にご家族様へ電話をして頂いている。また、月間報告書には本人の自筆によるメッセージを記入する欄を設けている。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の清掃を一日数回実施し常に清潔で気持ちよく生活して頂けるようにしている。また、写真を貼りだしたり、机などの配置を工夫する等、落ち着いて生活できる環境づくりに心がけている。</p>	<p>日中は、共用空間で過ごす利用者が多い。共用空間では職員、利用者共にマスクの着用を義務付けている。6人掛けのテーブルでは飛沫が飛ばないように仕切り板をおいている。事業所内で季節を感じる事ができるように職員と一緒に作成した作品を飾る等の工夫をし季節感を出すようにしている。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>席の配置についてはご利用様の間人関係を考慮したり、ソファを配置するなどし自席以外でも自由に過ごすことができるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使われていた馴染みの物を置くなどし、落ち着いて過ごして頂ける環境作りに努めている。</p>	<p>居室はエアコンと防火カーテンのみ備え付けである。持ち物はこれまでの生活で使い慣れた物を持ち込む利用者が多い。持ち込み物にはベッド、寝具、タンス、位牌、パソコン、本、DVD等様々である。持ち物が極端に少ない利用者については、事業所が一部家具等を貸出し、居室内の環境を整えていることもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーとしている。また、階段、フロアには手すりを設置。昇降可能な方は階段を利用。困難な方はエレベーターをりようするなど個人の能力に合わせ対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない